

平成 30 年度 自然を活用した幼児期の運動プログラム普及事業  
「親子で仲良く！アドベンチャーキッズ」 事業報告書

企画指導専門職 花田 誠

## 1 事業の概要

- (1) 趣 旨 沢登り体験（荒天時：ボルダリング）や運動プログラム等を通して、幼児の体力の向上を図り、豊かな感性を育てる。また、親子での活動とすることで、体験を通して、保護者に体験活動の大切さを知らせるとともに、親子及び保護者間のコミュニケーションを深める機会とする。
- (2) 期 日 平成 30 年 9 月 1 日（土）～ 2 日（日） 1 泊 2 日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、草原学習館、CLAMP
- (4) 参加者 幼児とその保護者 28 名（定員 20 名 応募者 40 名）  
（保護者 15 名、幼児 13 名）
- (5) 講 師 研修指導員 前田 崇徳 氏  
Pilates Studio ラパン 原部 静子 氏  
阿蘇教育事務所 栃原 憲聖 氏 麻生 秀治 氏
- (6) 担当職員 花田 誠（企画指導専門職） 山下 正晃（企画指導専門職）  
前田 夢依（事業推進係員） 東 寛児（事務補佐員）  
法人ボランティア 4 名
- (8) 内 容
- 【1 日目】 ・ボルダリング（CLAMP） ・ネイチャーゲーム（草原学習館）  
・子育て交流会（保護者） ・ピラティス（保護者）  
・運動遊び（子供）
- 【2 日目】 ・運動遊び（親子でバランスボールを使った運動遊び） ・カートンドッグ作り

## 2 成果と課題

### (1) 成 果

- 「荒天のため沢登りができず残念だった。」と感想があり、プログラム別に課題は見られたが、事業として 100% という高い満足度を得られた。ボルダリング体験では、「子供の普段の家では見られない姿が見られてよかった。」「子供の意外な能力に気づくことができた。」「ボルダリングはなかなかする機会がないので良かった。」等の感想が見られた。子供が挑戦意欲や達成感、充実感を得ながら登る姿から、保護者に幼児期の体験活動の重要性を感じてもらうことができた。
- 「様々な体の動きをさせていきたいと思います。」「初対面の人や知らないことに直面すると、なかなか自分を出せない子ですが、今回、少しでもがんばろうという姿勢が見られて感動しました。」「運動を通して、子供たちとのコミュニケーションが取れるプログラムでよかったです。」「家族やいろいろな方とコミュニケーションをとる機会があってよかったです。」等の感想があり、親子や保護者間のコミュニケーションを深めるよい機会になったことが伺えた。
- 親子が分かれた活動により、子供だけでなく保護者も自分の時間を持つことができ、同世代間の子育てに関する情報交換やピラティスにより、心も体もリラックスした様子が見られた。
- ボランティアスタッフが各家庭の子供や保護者に寄り添って活動することができた。そのため、ボランティアの子供への接し方などのスキルアップや子供・保護者の安心感につながっていた。

### (2) 課 題

- 荒天のため、予定していた沢遊び・沢登りから、屋内でのボルダリングに変更した。荒天時、所内においても自然を活用した幼児向けの運動として代用できるプログラム開発が必要である。
- 所内においても、自然を活用した幼児期のための運動プログラムの開発が必要である。
- 参加者が、幼児・保護者の場合の振り返りの方法について、研究・研修を深める必要がある。

### 3 事業の様子



アイスブレイク



ボルダリング体験



ネイチャーゲーム



運動遊び（スポーツリバーシ）



ピラティスの様子



親子でカートンドッグ作り



親子でバランスボールを使った運動遊び



カルデラ相撲